

2019年8月8日
日本船主協会企画部広報室

川崎汽船 自動車運搬船「GLOBAL HIGHWAY」への高速鉄道車両積み込み見学会を実施

当協会は、「海と日本プロジェクト」の一環として、会員会社をはじめ、関係団体と連携し、商船や海事施設の見学会等を「船ってサイコ〜」と題して実施し、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力を入れております。

今般、7月26日（金）に山口県下松市において川崎汽船とともに同地で作られたイギリス向け高速鉄道車両の自動車運搬船への積み込み見学会開催に協力致しました。本見学会は、川崎汽船の最新鋭船の下松港への2015年からの寄港開始に伴い、同市の地域振興活動に注力する“くだまつ産業交流センター”が毎年主催し（同市教育委員会後援）、次世代の就学児童・学生を中心に多くの市民が参加しております。今回は“NPO 下松べんけい号を愛する会”の発案で、鉄道車両と世界のつながりに関心をもつ市民に参加を募ったもので、親子連れ約140名が参加しました。

当日は、川崎汽船の庭瀬元船長が船内を案内し、本船は12層に分かれた構造で約7500台の車を積載することができること・積み込まれる車両はスエズ運河などを經由し9月20日頃に英国に到着するなどの説明をしました。参加者は岸壁からみた全長約200mの巨大な本船に驚きながら、船内に入ると、長さ25mの輸出用鉄道車両を載せたトレーラーが目の前をゆっくりと通り過ぎ、積み込まれていく様子を見学しました。迫力ある荷役に子供たちからは「車両が積み込まれるのがかっこよかった」、「船が電車を運んでいることを初めて知って驚いた」などのコメントがありました。



その後、高さ約35mの本船屋上デッキより港内や荷役の様子を眺め、最後に船員の居住区を経て操舵室を見学しました。また、当日は地元メディアの取材も入り、注目を集め大盛況のうちに終了致しました。

なお、下松から自動車運搬船によるイギリス向け高速鉄道車両輸送の縁で、当該車両の送り先近郊にある世界最古の駅の保全活動に関心が高まり、下松市民及び本輸送関係者による寄付が昨年行われています。“物運び”を通して“世界をつなぐ”海運の役割が発揮された事例と言えます。

当協会は引き続き会員会社と連携し、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。

